

# 中林下遺跡の発掘調査

—平安時代の胆沢城と関連する公的施設群—

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

## ■はじめに

中林下遺跡は、奥州市水沢真城字中林下地内に所在し、北上川へと東流する大深沢川が形成した小規模な扇状地に立地しています。

発掘調査は、一般国道4号水沢東バイパス事業に伴うものです。主に平安時代(9～10世紀)の遺構や遺物が見つかりました。

この遺跡は、昨年・一昨年に隣接する東側を圃場整備事業に伴い調査しているため、その成果も加えて本資料は作成しています。

## ■遺跡の内容

令和4年7月13日現在までの調査で見つかった主な遺構・遺物は以下になります。

【平安時代】 ※今年度調査の遺構数を表記。( )内は昨年度までの遺構数と合計数を表記。

〈遺構〉

掘立柱建物 6棟 (R2・3: 32棟、計38棟)

竪穴建物 1棟 (R2: 2棟、計3棟)

竪穴状遺構 1棟 (R2・3: 6棟、計7棟)

土坑 2基 (R2・3: 12基、計14基)

その他遺構 3基 (計3基)

池状遺構 (R3: 6箇所、計6箇所)

〈遺物〉

土師器・須恵器(坏・高台付坏・甕・壺)

緑釉陶器

渥美産陶器(12世紀後半頃)

建築部材(柱・枕木など)

## ■遺跡の特徴

【平安時代】

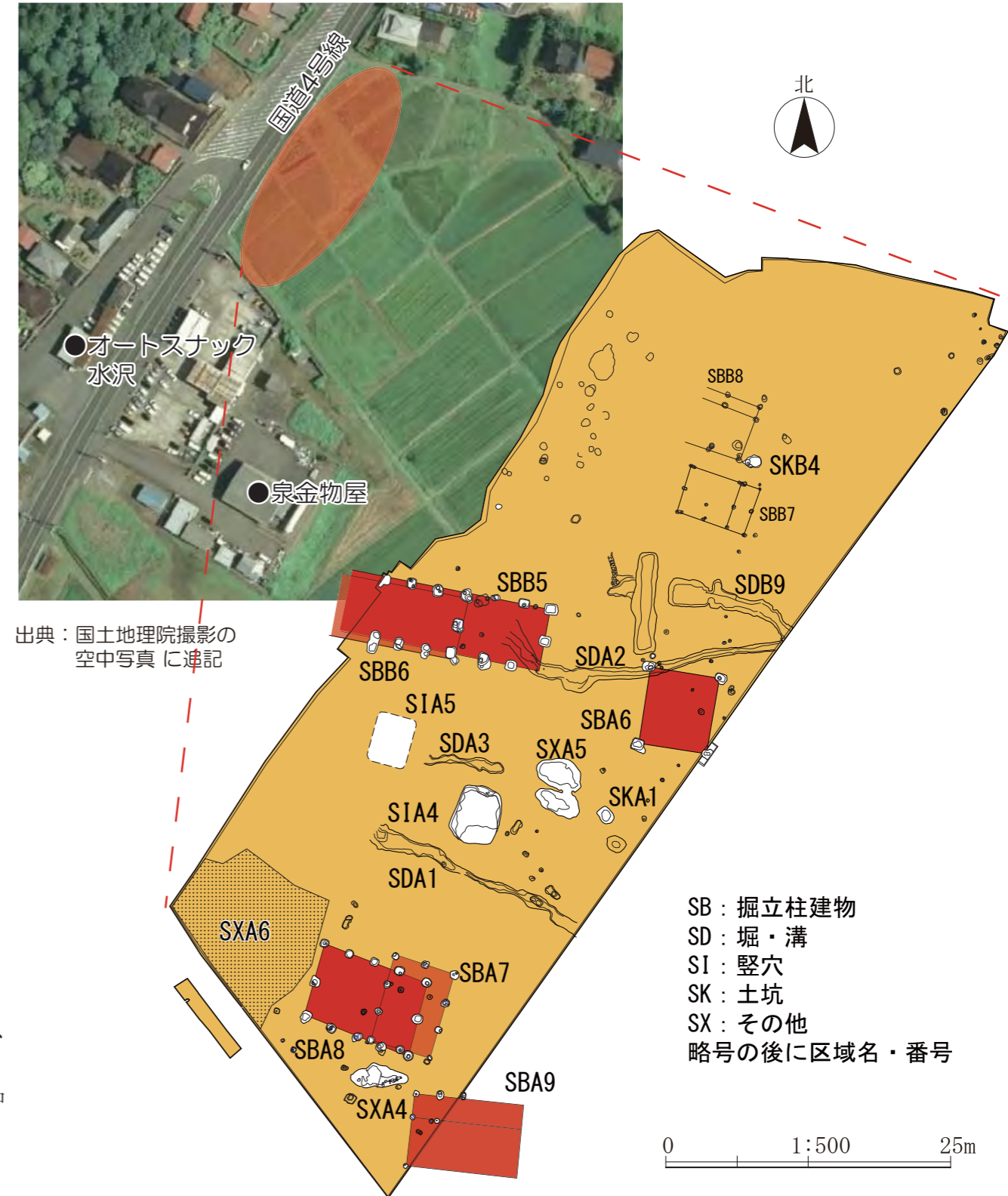
- ・奈良時代の遺構・遺物が無く、平安時代になってから成立した可能性が高いといえます。
- ・当地には9世紀初頭、胆沢城が造営されます。中林下遺跡は胆沢城の南約8.3kmに位置し、9世紀中葉から始まり、10世紀中葉頃から衰退していくようです。
- ・本県におけるこの時期の一般的な集落は、竪穴建物を主体とするのに対して、本遺跡は38棟もの掘立柱建物群が中心となります。通常の集落とは様相が異なり、胆沢城と関係を持つ公的施設群であったと考えられます。

【その他】

- ・12世紀後半(平泉藤原氏の時代)の遺物(陶器)も破片で数十片見つっています。
- ・江戸時代及びそれ以降の遺構もあります。



中林下遺跡と胆沢城跡の位置関係  
(縮尺 1:100,000)

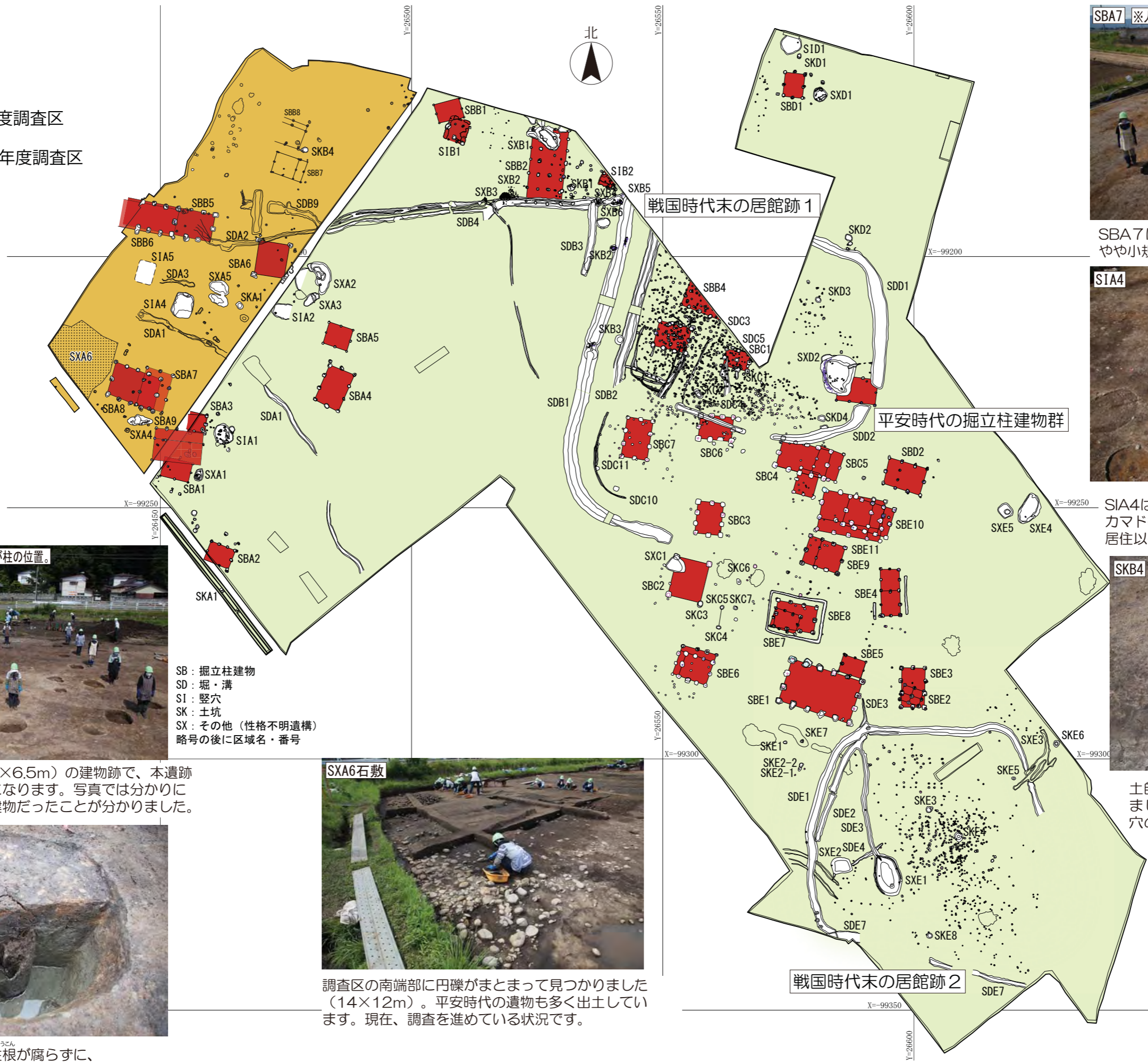


出典：国土地理院撮影の  
空中写真に連記

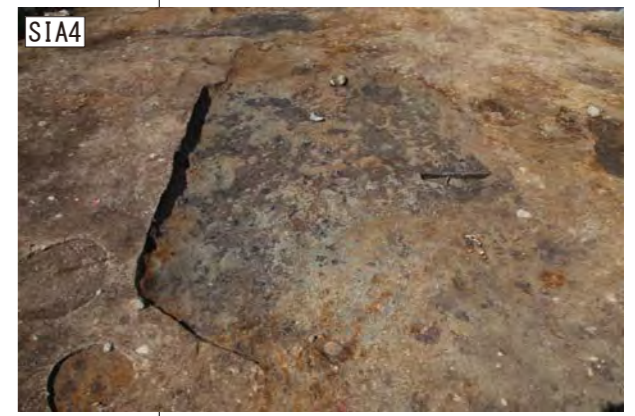
SB：掘立柱建物  
SD：堀・溝  
SI：竪穴  
SK：土坑  
SX：その他  
略号の後に区域名・番号

中林下遺跡 R4調査区遺構図  
(令和4年7月13日現在)

R4年度調査区  
 R2・3年度調査区



SBA7は3×2間 (5.7×7.7m) の建物跡で、やや小規模な建物です。



SIA4は4.3×5.6mの長方形の竪穴状遺構です。カマド等の火を焚いた痕跡は見られないため、居住以外の目的で使用された可能性があります。



土師器の坏が10数個体分まとまって見つかりました。使わなくなった土師器坏をまとめて穴の中に捨てて埋めたものです。



SBA8は4×2間 (9.9×6.5m) の建物跡で、本遺跡の中では中規模の建物になります。写真ではわかりにくいですが少し歪んだ建物だったことがわかりました。



柱穴の中には残された柱根が腐らずに、ほぼ当時のまま見つかったものがありました。



調査区の南端部に円礫がまとまって見つかりました (14×12m)。平安時代の遺物も多く出土しています。現在、調査を進めている状況です。

中林下遺跡 検出遺構全体図 (令和4年7月13日現在)